

令和4年度 第2回

# 「嶺南ふるさと学習」 推進プロジェクト会議



令和5年2月10日（金）

14：00～実践発表

14：50～会 議



# 「嶺南ふるさと学習」推進プロジェクト

嶺南のふるさとを生かした「探究的な学習」

知る

つなぐ  
広げる

つくる  
かかわる

育む「ふるさと愛」

- ・ 地域を生かす、守る
- ・ 地域とつくる、育てる



育てる「資質・能力」

- ・ 自ら「問い」をつくる力
- ・ 対話力、協働する力
- ・ 発信力、課題解決力

高校

中学校

小学校

探究的な学習活動の充実  
つけたい力の系統化

「問い」を  
深く探究

嶺南教育事務所  
推進プロジェクト実行委員会

○調査・研究プロジェクト

- ・ 資質・能力の評価（調査・研究）

○学び・交流推進プロジェクト

- ・ R-cafeの開催、嶺南教育実践フォーラム

○連携サポート・広報プロジェクト

- ・ 学校事業のサポート（訪問研修等）<sup>2</sup>
- ・ 情報の発信（HP、STEP等）

嶺南市町教育委員会・学校（小・中・県立学校）推進プロジェクト



# 「嶺南ふるさと学習」推進プロジェクトの進め方

## 第1ステージ (令和3～5年度)

知 る

- 資質・能力の評価方法の調査・研究
- 県事業を軸にした異校種間のつながりづくり
- 情報の発信・交流・共有  
(R-cafe、嶺南教育実践フォーラム等)



## 第2ステージ (令和5～6年度)

つなぐ  
広げる

- 資質・能力の評価方法の試行・調査
- 異校種間と「つなぐ」「広げる」
- 教科と学びを「つなぐ」「広げる」
- 情報の発信・交流・共有  
(R-cafe、嶺南教育実践フォーラム等)



## 第3ステージへ ～ つなぐ ～

つくる  
かかわる

- 資質・能力の活動・評価の充実期へ
- 自ら「問い」をつくる
- 自ら「つながり・かかわり」をつくる
- 情報の発信・交流・共有  
(R-cafe、嶺南教育実践フォーラム等)



福井県教育振興基本計画の推進

嶺南市町教育委員会、  
学校の発展的な取組

# ステージ1「知る」年度別計画

R 3 「知るvol.1」 → 相互の実践を「知る」

課題→・資質・能力の見取り、評価  
・学校間の「つながり方」

R 4 「知るvol.2」 → ①資質・能力の見取り・評価  
②異校種間のつながり方

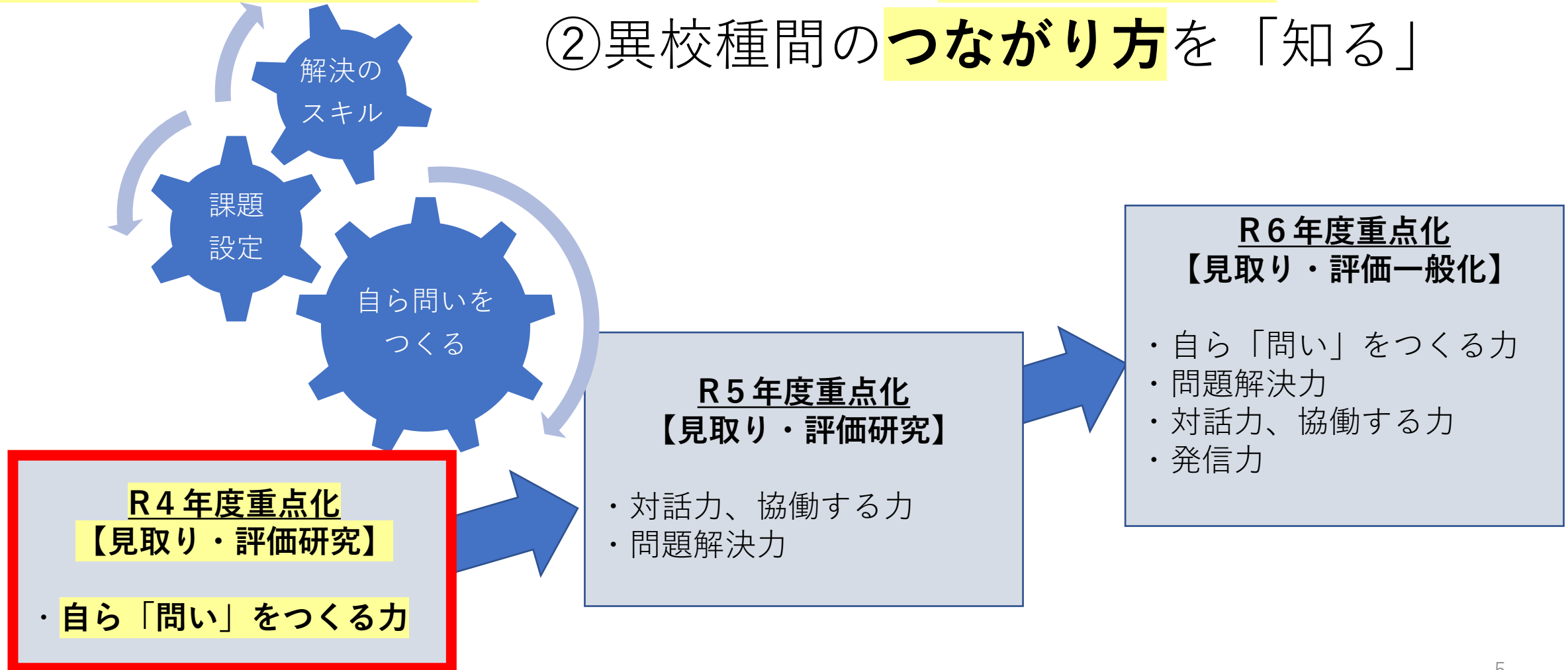
R 5 「知るvol.3」 → 「つなぐ・広げるvol.1」

学校間の教員、児童・生徒をつなぐ  
探究的な学びをつなぐ「ふるさと学習⇔教科」<sup>4</sup>

# 重点化した「知る」の「見取り・評価」研究

## R4 「知るvol.2」

- ①資質・能力の**見取り・評価**を「知る」
- ②異校種間の**つながり方**を「知る」



# 「自ら『問い』をつくる力」への ギミック（しかけ）について

○どのような環境が自ら問いをつくる「きっかけ」となるのか

- ・ 課題の設定における「しかけ」「きっかけ」
- ・ 外部との連携（地域・学校間・異校種間）でつくる「しかけ」

小学校

探究的な学習活動の充実  
つけたい力の系統化

○学び・交流推進プロジェクト

・ R-cafeの開催、嶺南教育実践フォーラム

○連携サポート・広報プロジェクト

・ 学校事業のサポート（訪問研修等）



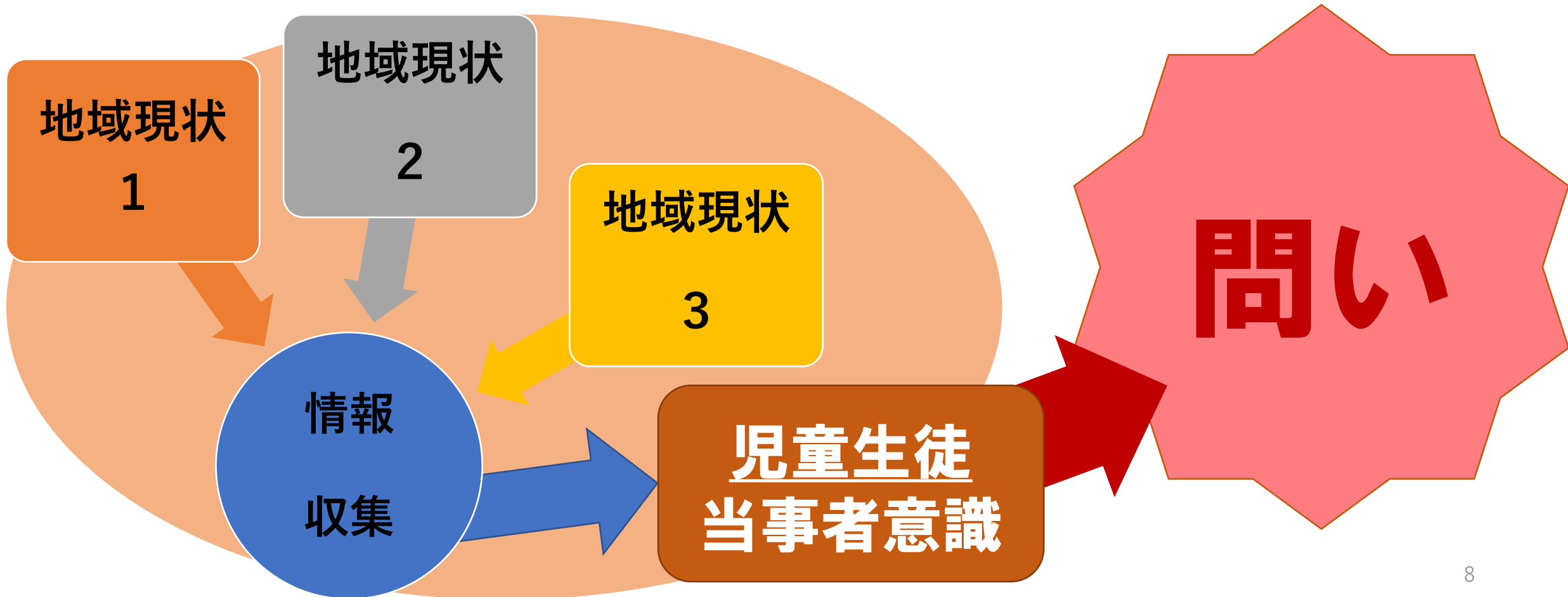
# 自ら「問い」をつくるギミック①

## ～豊富な体験が「問い」の基本～



# 自ら「問い」をつくる ギミック②

## ～多くの情報受信から「問い」へ～





# 自ら「問い」をつくる ギミック③

～地域からのSOSが「問い」に～



# 自ら「問い」をつくる ギミック④

## ～地域からのSOS + 「問い」の継承～

地域連携  
地域課題の  
・投げかけ  
・協力依頼

異校種連携  
「問い」の継承  
学び方等の手本

児童生徒  
当事者意識

問い

## 「自ら『問い』をつくる力」の 見取り・評価の場面・方法

- 「どの場面」「どの姿」を「どのように」見取り、評価するのか
- 「メタ認知」としての自己との向き合い方をどうつくるか

小学校

探究的な学習活動の充実  
つけたい力の系統化

○学び・交流推進プロジェクト

・R-cafeの開催、嶺南教育実践フォーラム

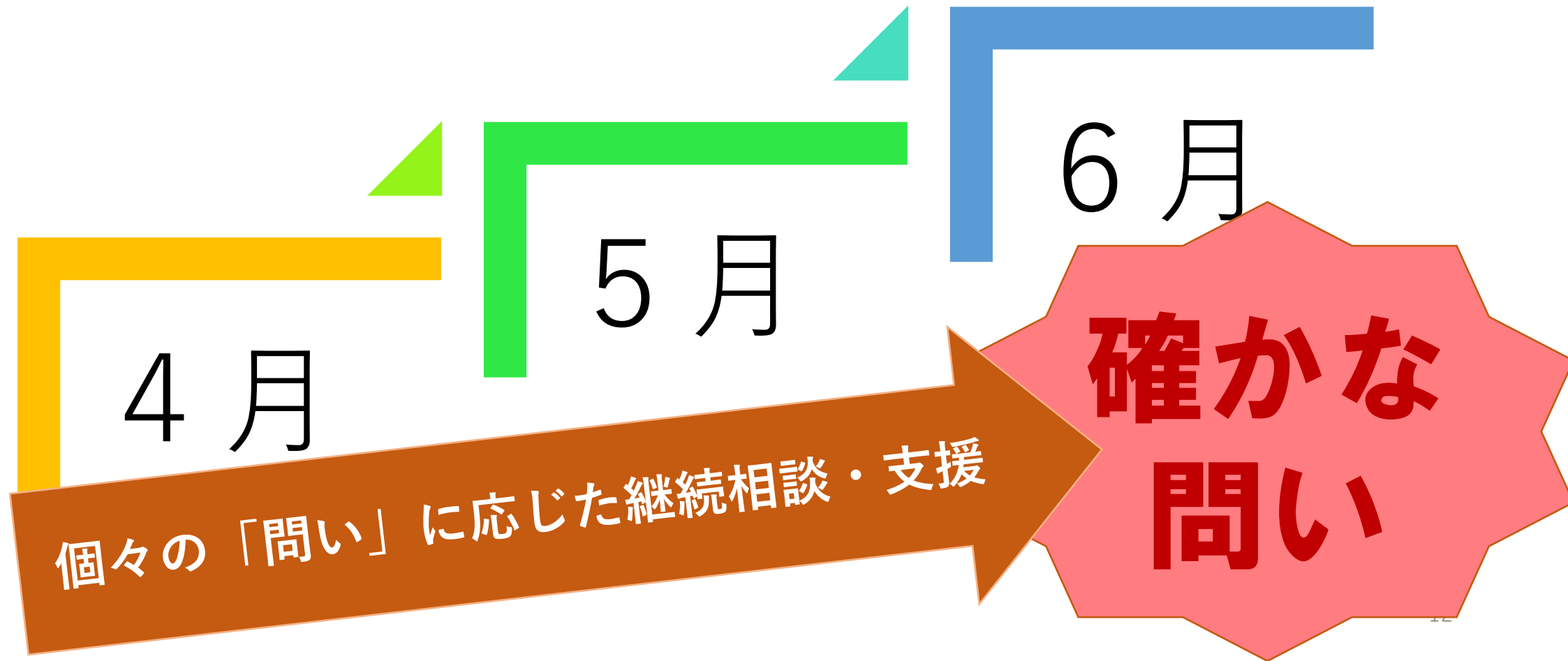
○連携サポート・広報プロジェクト

・学校事業のサポート（訪問研修等）



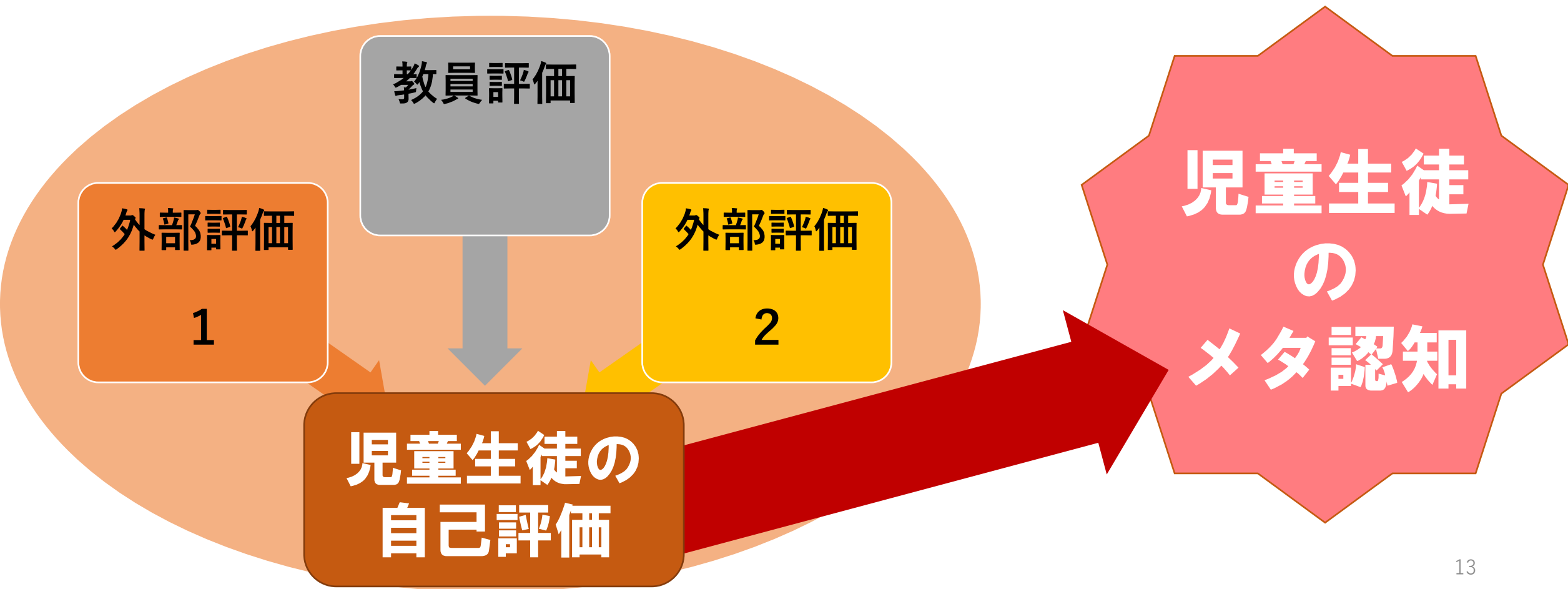
会議事前学校訪問から見たこと

自ら「問い」をつくる見取り・評価①～面談～



# 会議事前学校訪問から見たこと

自ら「問い」をつくる見取り・評価②～自己・外部評価～



# 「嶺南ふるさと学習」推進プロジェクト の進捗について



R 4 「知る vol.2」 → ①資質・能力の見取り・評価  
②異校種間のつながり方



# <1>「嶺南ふるさと学習」の進捗

## 嶺南教育事務所

## プロジェクト実行委員会の取組



# R 4 「知るvol. 2」 事務所実行委員会のギミック

## 「指導と評価」 調査研究チームmission

### ◇見取り・評価について「学校モデル」を調査

- 【学校調査】
- ・ R3年度アンケートをもとにした見取り・評価の調査
  - ・ 学力調査(国・県)の児童生徒質問紙と関連した調査研究
  - ・ 自ら「問い」をつくる学習場面の参観

【基本】 特別支援学校の個の見取り方に学び・たち返る

# 新聞から【敦賀市】「地域の人（産業）・高校生から学ぶ」

みんなて  
読もう

## 敦賀高生に質問攻め 松原小6年、先輩と交流



敦賀市松原小児童と敦賀高生の交流会が6日、同小で開かれた。6年生約50人が、先輩から高校生の授業の特徴などを教えてもらい、学習意欲を高めた。

6年生は総合的な学習の時間で国連の持続可能な開発目標（SDGs）を学んでいる。目標4「質の高い教育をみんなに」の達成に向け、敦賀高生から学校生活全般について聞くことになった。同校からは1～3年生24人が参加した。

高校生は、授業では自分たちで考え自主的に活動する時間が多いと紹介。

高校の授業の特徴などについて学ぶ児童＝6日、敦賀市松原小

グループに分かれて質疑応答も行った。児童は将来の夢や敦賀高を選んだ理由について、高校生に熱心に質問していた。柳迫瑛太君（11）は「先輩たちはたくさん教料を一生懸命勉強していると分かった。僕もこれからもっと勉強したい」と意気込みを語った。

### 情報受信型

### 連携型

## 東浦みかん 成長願い摘果 敦賀 地元小中生が作業



敦賀市東浦小中の児童生徒が7日、同市大比田のミカン園で地元特産「東浦みかん」の摘果作業を行った。農家のアドバイスを受けながら手際よく実を摘み取った。同校は毎年「東浦みかんプロジェクト」と銘打ち、年間を通して剪定や収穫作業を行っている。

東浦みかんの摘果作業＝7日、児童＝7日

継承型

## 中学生接客通じ地域理解 角鹿中47人商店街で一日店長



敦賀市角鹿中は28日、校区にある神楽町1丁目商店街の店舗で「一日店長」を体験した。接客などを通じ、地域への理解を深めた。

同校が今年も学習として、地域の活性化のためにできることを考えようと身近にある同商店街で一日店長を務めた。1年生から3年生まで、男女合わせて47人が参加した。生徒は事前研修で接客マナーや商品知識を学び、当日は笑顔で接客にあたった。同店の西島由佳里さん（51）は「こういう企画は初めて」と歓迎した。

まじゅう屋の天清酒万寿店では生徒4人が接客や商品の包装、店をPRする新聞の制作などに取り組んだ。店内には次々と客が訪れ、生徒は対応に追われていた。小西晴太郎さん（13）は「予想以上にお客さんが来て大変だったけど、笑顔で接客できたのが良かった」と振り返った。

同店の西島由佳里さん（51）は「こういう企画は初めて」と歓迎した。

体験型

## 支え合うって大切



川崎所長（左）のアドバイスを受け、児童はアルミ缶をつぶす作業。12日、敦賀市黒河小

敦賀市黒河小介護事業所が授業

## 体験型



# 新聞から【小浜市】「地域の自然・産業を体験、発信する」

## 小浜・国天然記念物の無人島

## 蒼島 探検だ

加斗小5、6年

### カヤックや植物観察



蒼島は同市加斗の松原海岸から約1.5kmの沖合に位置し、面積は約2500平方メートル。島の周囲は約1km、島の中央には約10mの深さの天然の池がある。島には、島の自然の魅力を伝えるための自然観察のコースが設けられている。加斗小5、6年生は、島の自然の魅力を伝えるための自然観察のコースに参加した。島には、島の自然の魅力を伝えるための自然観察のコースが設けられている。加斗小5、6年生は、島の自然の魅力を伝えるための自然観察のコースに参加した。



継承型

体験型

自分たちでデザインした着をアヒールし販売する児童たち。12日、小浜市北塩屋のGOSHOLEN



## “小浜色”のお箸いかが 雲浜小児童デザイン、販売

小浜市雲浜小児童は12日、小浜をイメージし自分たちで色合いを考案、製作した箸を市内で販売した。小浜の魅力発信を目指す4年生の総合学習の一環。梅田雲浜やサバ、蘇洞門など小浜の人物や食、自然など6つのテーマをイメージし箸をデザイン。6月には水に特殊な染料を落として箸に写し取る特殊技法で、各テーマのイメージに合う模様を箸に付けた。若狭塗箸製造販売のマツ

みんなで読もう

体験型

## 集めたこみで海中風景

内外海小児童 ハーバリウム作成

小浜市内外海小の5年生が18日、海洋（み）や地元の海岸の砂、貝殻などを使ったハーバリウム作り挑戦した。児童は瓶を海中に見立て、自由な発想で個性あふれる作品を完成させた。5年生では総合学習の時間で海洋（み）について学習しており、夏には内外海地区の海岸清掃も行った。海洋（み）の活用策を考える中で、児童がハーバリウム作りを提案した。



SOS型

体験型



新聞から【美浜町】「3小学校・中学校がまちづくりを提言」



## SOS型

## 連携型



## 情報受信型

## 継承型





新聞から【美浜町】「3小学校・中学校がまちづくりを提言」

## 団体・プロジェクト名 \_\_\_\_\_

## 北海道ブック

國家·甲信越

4514

華商

此

ふるさと美浜元気プロジェクト

加士蘭个旺黎宋江安國在

シズオカノーボーズ

尾州のカレント

むすび目Co-working

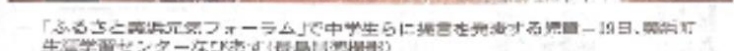
五

中國·空間

未来

九州・沖縄

子どもパートナーズ H11672



### 3小児童ら奮闘

[illegible]

地域再生大賞 候補50団体

各地のまちづくり活動は新型コロナウイルス禍を  
経て、しなやかさ、たくましさを増した。福井新聞  
など地方新聞46紙と共同通信社が全国のまちづくり  
を応援する第13回地域再生大賞の第1次選考を通過  
した50団体・プロジェクトは困難を占領し、未来を  
切り開こうと挑み続ける。担い手は若い世代や障害

## SOS型

福井は「ふるさと美浜元気プロジェクト」

の活性化策発信

県美浜町の全3小学校が学習の一環として合を調査し、課題や課題アイデアを新聞にしたラムを開いたりしてらに発信している。2018プロジェクトがスタート



# 新聞から【高浜町】「まちの課題を地域と共に解消に取り組む」

みんなで……  
……読もう

## 虫よけ手作りで「シュッ」 高浜・内浦中 地元産ハーブ活用

運美准教授(右)がアップルミントから精油を採る様子を観察する生徒 15日、高浜町内浦中

「うちうちレモンゼリー」の商品化に向けた活動を始め、児童ら＝31日、高浜小

### 高浜っ子提案 特産で商品化

レモンゼリー 薬草の染め物

連携型

SOS型

地元小6年 住民投票で決定

### まちの課題に 児童が解決策

高浜小 地元団体と実行へ

産業や観光、8分野提案

高浜町が抱える地域課題と解決策について  
発表する児童 13日、高浜小

連携型

SOS型

体験型

連携型

### SDGs 分かったよ 高浜小で交流学习

高小SDGsは、住みやすいまちづくりや町内人口増加へ、児童が今年春、産業や観光、仲間づくり、伝統文化のテーマがある。交流学習は児童にSDGsへの理解をより深めてもらうと、探究学習でSDGsを学ぶ若狭高生らとオンラインで実施した。

児童約60人は、国連のSDGs 17項目と高小SDGsの8項目の関連性を考えた。児童は各SDGsアイコンについて、達成目標が類似するアイコンを選び線で結んでいった。「パートナーシップで目標を達成」といった難しい表現が登場すると、生徒に言葉の意味を質問しながら理解を深めた。

木下大勢君(6年)は「国連の目標と高小SDGsにはいろんな関わりがあり面白かった」と話していた。(石川悠樹)

国連のSDGsと「高小SDGs」の関連を考える児童たち＝20日、高浜小



# 新聞から【おおい町】「地域の自然にふれる、体験する」



体験型

継承型

# 新聞から【若狭町】「地域を知る・体験する、調査・発表する」

みんなて... 読もう

## 梅干し作りって大変

若狭町三方小 シソ漬け込み体験

若狭町三方小の6年生は8日、梅干し作りに欠かせないシソの漬け込み作業を体験した。葉のもぎ取りやあく抜きに挑戦し、「福井梅」に理解を深めた。地元特産に親しみ伝承してもらおうと同校では毎年、6年生が収穫や塩漬



シソの葉をもぎ取る児童＝8日、若狭町三方小

体験型

1500年前の埴輪片を慎重に扱う児童  
＝4日、若狭町歴史文化館



## 埴輪片接合 児童が挑戦

### 若狭町瓜生小 5世紀後半の30点 貴重さ体感「ドキドキ」

若狭町脇袋の脇袋古墳群について学習している地元瓜生小の6年生が4日、町歴史文化館で、国指定史跡の西塚古墳から出土した5世紀後半の埴輪片の接合体験に挑戦した。断面を確認しながら慎重に固定し、古墳の貴重さを肌で感じた様子。今後古墳について調べ、今秋までにパンフレットを作製する予定だ。

(北川龍次)

脇袋には縄文最大規模、全長約100メートルの上ノ塚古墳や国史跡跡の中塚古墳など4基の古墳が密集し、脇袋古墳群といわれる。そのうちの1つが古墳時代中期の築造とされる西塚古墳。周溝のある前方後円墳で、全長は推定74メートルあり、石室から朝鮮半島で作られた金の耳飾りが出土。1935年に国史跡の指定を受けた。同校6年の20人は、昨夏町が実施した発掘調査を見学するなど、総合的な学習の一環で地元の古墳に理解を深めてきたという。町が一般の子ども向け接合体験を企画したため、担任教師が地元でもせひやってほしい」と依頼し、実現したという。今回接合したのは昨夏の発掘調査で大量に出土した円筒埴輪のかけら。住民でつくる町歴史文化館サポーターの会のメンバーが洗浄し、既に接合部分が分かっている約30点を用意した。この日は児童19人が参加し、近藤匠学委員(29)や同会の計10人から補助を受けた。「1500年前の埴輪(物)」「断面を合わせていくとパチンとくるところがある」となど教わりながら接合作業に励み、手を震わせながら固定させていた。会場には約1900点の埴輪片も並び、児童は接合できないか試していた。今後パンフレットを作製し、今秋予定している修学旅行先などで配布する予定。永原祐喜さん(11)は「楽しかった。バズルみたいに乗せられた。きょう教わったことを生かし、古墳の魅力が伝わるパンフレットにしたい」と意気込んでいた。

体験型

## 身近にできる省エネ 児童がアイデア発表

若狭町鳥羽小

地球温暖化について、大手企業の社員と考えるオンライン授業がこのほど、若狭町鳥羽小で行われた。6年生17人が身近にできる省エネや節電アイデアを発表して理解を深めた。

静岡大の埴田真吾准教授が代表を務める一般社団法人「プロフェッショナルをすべての学校に」が全国各地の小中学校で行っている授業。さまざまな業種の企業と連携しており、今回は富士通総務本部の尾池紀子さんが講師を務めた。

児童は1カ月前から地球温暖化について学習してきた。6グループに分かれ「冷蔵庫の中を整理する」「夏は衣類乾燥機を使わず外で干す」などと、自分た

情報受信型

## 身近にできる省エネを 実践し発表した児童

若狭町鳥羽小



ちで考えた省エネの取り組みと実践結果を発表した。

ドライヤーの使用時間を減らしたという児童の発表について、尾池さんは「温風に比べ、冷風の消費電力は10分の1程度。うまく使ってみて」と助言。重長柚希さん(11)は「髪にツヤも出ると分かった。取り組みたい」と意気込んでいた。

(北川龍次)



# 新聞から【県立学校の取組～「×」で新しいものを生み出す】



難民に服を届けるプロジェクトについて生徒に説明するユニクロ敦賀店のスタッフ＝小浜市の若狭東高

### 難民に服支援 意義学ぶ

#### 若狭東高 ユニクロスタッフ招き

小浜市の若狭東高は、ユニクロやジーユーを運営するファーストリテイリング(本社山口県)などが実施する、難民の子どもたちに服を届けるプロジェクトに2年連続で参加する。このほど同校でユニクロのスタッフによる講義が行われ、生徒が難民やプロジェクトの意義について理解を深めた。

「届けよう、服のチカラ」と銘打ち、同社が国連難民高等弁務官事務所と連携して約10年前から取り組んでいる。小中高生の参加型プロジェクトで、昨年度は全国625校から80万着以上を集めた。

若狭東高は、昨年度の3年生が初めて参加。本年度は、国連の持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ社会の授業の一環として、ビジネス情報科経営コースの3年生10人が取り組む。

ユニクロ敦賀店の増田直仁店長らスタッフ2人が講義した。増田店長は難民の子どもたちは少量の荷物で逃れるため、衣食住を整える支援が必要と説明。

「着なくなった服を捨てるのではなく、必要とする人に届けることで環境問題解決にもつながる」と協力を呼び掛けた。

市川幸裕さん(17)は「SDGsのために自分に何ができるか、初めて具体的に考えられた。地域にも協力の輪を広げて、たくさん集めたい」と話した。

生徒は今後、服を集める方法を考え、2学期中に実践する予定。(田中奈々子)

情報受信型

連携型

## 知育・啓発施設「ちえなみき」

# 公式LINE敦賀高生運営

### お薦め本やイベント発信

敦賀市の「ちえなみき」が、LINEで高生に「お薦め本やイベント」を発信する。公式LINEは「ちえなみき」のLINEアカウントを通じて、高生に「お薦め本やイベント」を発信する。公式LINEは「ちえなみき」のLINEアカウントを通じて、高生に「お薦め本やイベント」を発信する。

体験型

## 美方高校新聞

### 十村駅リニューアル

#### 地元へ愛され新たな時代を歩む

三月〇日、十村駅のリニューアルオープン式典が、駅舎を改装した新しい駅舎で行われた。この日は、地元の人々や関係者約五十人が参加し、駅舎の改装やリニューアルの意義について話し合った。

美方高校新聞は、このリニューアルを機に、駅舎の改装やリニューアルの意義について話し合った。

SOS型

連携型



新聞から【県立学校の取組～縦・横の「つながり」をつくる】

# 敦賀 敦賀気比 敦賀工 美方 4高校一丸 合同文化祭

新型コロナウイルスの影響で学校生活が制限されてきた中、自分たちで青春の思い出をつくらんと、敦賀、敦賀気比、敦賀工、美方の4高校の生徒による合同文化祭が8月1日、敦賀市きらめきみなと館で開催される。歌やダンスの発表、模擬店出店などがあがり、高校生と敦賀商工会議所青年部についてる実行委が、福井新聞社などにちやうらウドファンディングサービス「ミラカナ」で運営費を募っている。締め切りは31日。

(吉田由那)

入学時からコロナ禍で過ごし、学校行事が規模縮小になった1部活動の大会が止まるなど、1年生が中心となり、4月からチームベースで作成やステージ発表の

出場費負担などの課題を導いてきた。合同文化祭は昨年10月にもオンラインで開催されたが、今回で2回目。

当日は午前10時〜午後5時に開催。歌やダンスなどのステージ発表があるほか、スマートフォンや楽器の演奏体験ができ

入学時からコロナ禍で過ごし、学校行事が規模縮小になった1部活動の大会が止まるなど、1年生が中心となり、4月からチームベースで作成やステージ発表の

出場費負担などの課題を導いてきた。合同文化祭は昨年10月にもオンラインで開催されたが、今回で2回目。

実行委が、福井新聞社などにちやうらウドファンディングサービス「ミラカナ」で運営費を募っている。締め切りは31日。

(吉田由那)

当日は午前10時〜午後5時に開催。歌やダンスなどのステージ発表があるほか、スマートフォンや楽器の演奏体験ができ

出場費負担などの課題を導いてきた。合同文化祭は昨年10月にもオンラインで開催されたが、今回で2回目。

## 体験型

## 連携型

教育 学ぶ・考える

## 敦賀工業高①

# 幸せを目指そう

教務部を学習支援部へ、生徒指導部を生徒支援部へ、進路指導部を進路支援部へ、教職工業高は本年度、名称を改めた。教職員のマインドを、指導から支援へ。学年主任を担任から外し、生徒の支援役とする取り組みも今年から始めた。「名称を変えることで意識が変わる。学年主任を担任から外すのは普通科高では多いのですが、うちも思い切って上杉本智彦校長。「生徒にね、自信を持ってもらいたいんです。いい生徒、いっぱいいるんですよ。そんな生徒を支えてあげられる学校にしたい。生徒には、自分の物づくりに世の中が委ねられるんだと知ってほしい。それを目標とした改革です」

杉本校長は大学卒業後8

年間、京大に在籍した経験がある。給湯へは左右に動かすと、お湯の温度が調整できる給湯器の中で部品の開発し、全国大会で1位となったのは入社3年目のときだ。

「福盛和夫さんには、いい製品とは、触れも手の切れずな製品なんだよ。などとかよく教えたものだ。」「ものつりの現場というところ方のような徒弟制度のイメージを授け方もおられますけど、全然違うんですよ。必要なのは自分のことをちゃんと話して、相手の話を求める対話力と、うち「お昼さんの要領をきかん受け取る力。社内どうやって製品化するか話し合っている力。つまりは対話力が必要だ。」

技術に何やら工業教育を、対話を重視した工業教育へ。今年から3年生が母校の中学校などへ出向き、教職工業高を説明する中学校訪問もスタートさせた。「中学生から聞いてきた話は学校に報告してもらって、企業がききさんと

打ち合わせするのと同じ経験を生徒にってもらっている感じだ」

る教科を「へいひの職業」として、授業から指導を受けられる講座を開くほか、企業訪問も「本物に触れられる」を意識しているという。

1

## 連携型

## 情報受信型

生徒自らが学校に出向き、敦賀工業高を説明する出前授業＝三方中

本校校長が相対を願うのは、生徒自身が「テーマ理解が中学校に思惑しから」「地域に地域との関わり生徒の思いが指」「うちの学校に喜んでもらうを知ってもらい生きます。」「ミッションの登記されて生働して幸せに生できる人材の育成を目指す」。

(福野昭彦)

(第3欄面(第1欄面))

第1欄面

第2欄面

第3欄面



新聞から【県立学校の取組 ～教科学習の授業を変える～】

## 体験型



心拍数を変える行動は？

敦賀高

「ジャンプする」の時算を5分間続ける」「笑いを5分間続ける」「30分間息を止めます」。それが「死んじやうふ」と所長が上がり教室がどろどろとわいた。「間違えた、30秒です」心拍数は意識して変えられないと学んだ生徒たち。「では」とどういう行動だったなら心拍数を変えられるか、「1と3宅家計画が関わり、実験計画を班ごとになてた。1年1組、理数生物科目「生物基礎」、ヒトの体内環境

[illegible]

想像を「理論化」しよう

若狹高

## 若狭高

あるグルーブは、コルク材の上に重りを載せ、重さによる摩擦の違いを調べ始めた。別のグルーブはコルク材と接地する

面の素材を、ベニヤ板から紙やすりに代えたり色鉛筆をコロ代わりにしたり。あるグループはベニヤ板を斜めにし角度をつけて測定し始めた。

「生徒には予想を立て、実験方法を考えるところからつづいてあります」と野坂教諭。「検証実験のやり方は一通りとは限りません。自由な発想でトライしてみたい」

実験のまとめでは「それぞれ、重さが変わっても傾斜は一定だから比例するだけや」「予想通りや」「数値がちよっと違わんか？間違いないか」と確かめ合う生徒たち。

野坂教諭は「物理では、この現象はこういう理由ではないか、という想像力が大事。摩擦係数は何を示す？って気づいてもらえれば」。コルク材とベニヤ板は、野坂教諭がホームセンターで見つけて教材にしようといひらめいたという。

自動車に載せるなど条件を  
変えて実験する生徒たち  
――若狭高

若狭高 ②

## 全教職員参加の互見会



## 異教科の手法を吸収

1組国語の授業を2人の先生  
担当した。1年1組の英語の  
先生は3人、互見会では先生  
同士の勉強会をした。全職職員  
58人が年代別の異なる4～5人  
2組を構成し、お互いの授業  
を聞き合い、先生としての感謝を語り  
合った。

「1世の持統」と兼松がお  
り致謝。「改めて藤先生と班  
構成の大切さ」。



互見会で生徒の様子や授業の進行を確認する先生＝西澤

[illegible]

## 指導 データで確認

## 若狭高などツール開発

生徒の受け止め「見える化」授業改善に活用

[illegible]

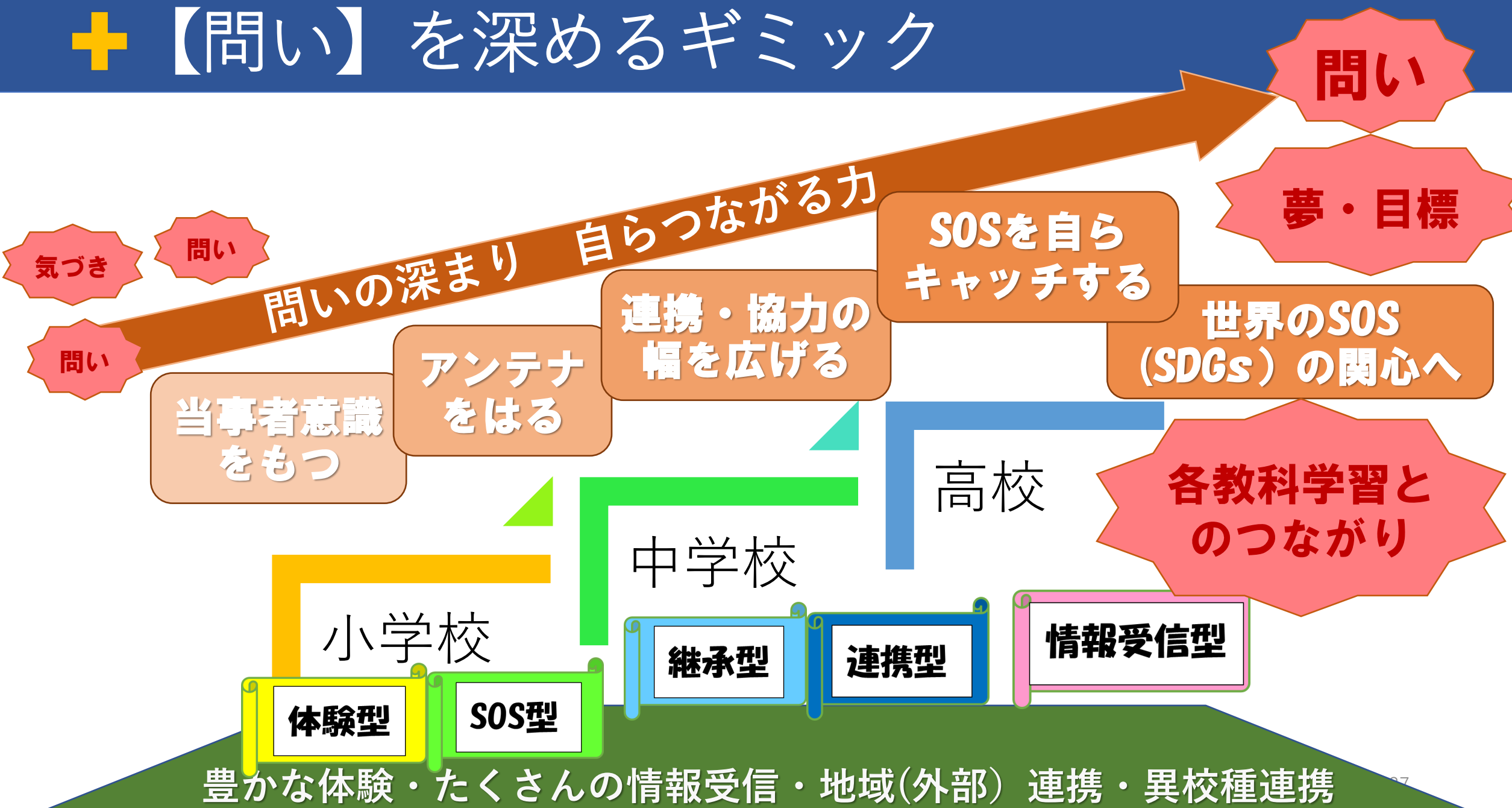
探究論文での生徒の行動傾向などを分析したグラフ



役職で面会する。関係のなかで、  
「理恵は横濱大と経済協会の関係で、  
20年度からアンケータとして  
に就任するから、アンケータ組  
の合同、関係を持たせたい」との  
理由に終り、グエグルワ  
ームには「  
ツールは日本銀行と関係が、  
民間、内閣府の共同関係、  
高橋氏のその機関で、資金を  
借り、利用する場合は相互に  
田中さん、利用中、これはW  
K MOTOR OLABAの  
アンケータ」(関係が)

## 情報受信型

# + 【問い】 を深めるギミック



問い

夢・目標

気づき

問い

問い

問いの深まり 自らつながる力

当事者意識をもつ

アンテナをはる

連携・協力の幅を広げる

SOSを自らキャッチする

世界のSOS (SDGs) の関心へ

各教科学習とのつながり

高校

中学校

小学校

体験型

SOS型

継承型

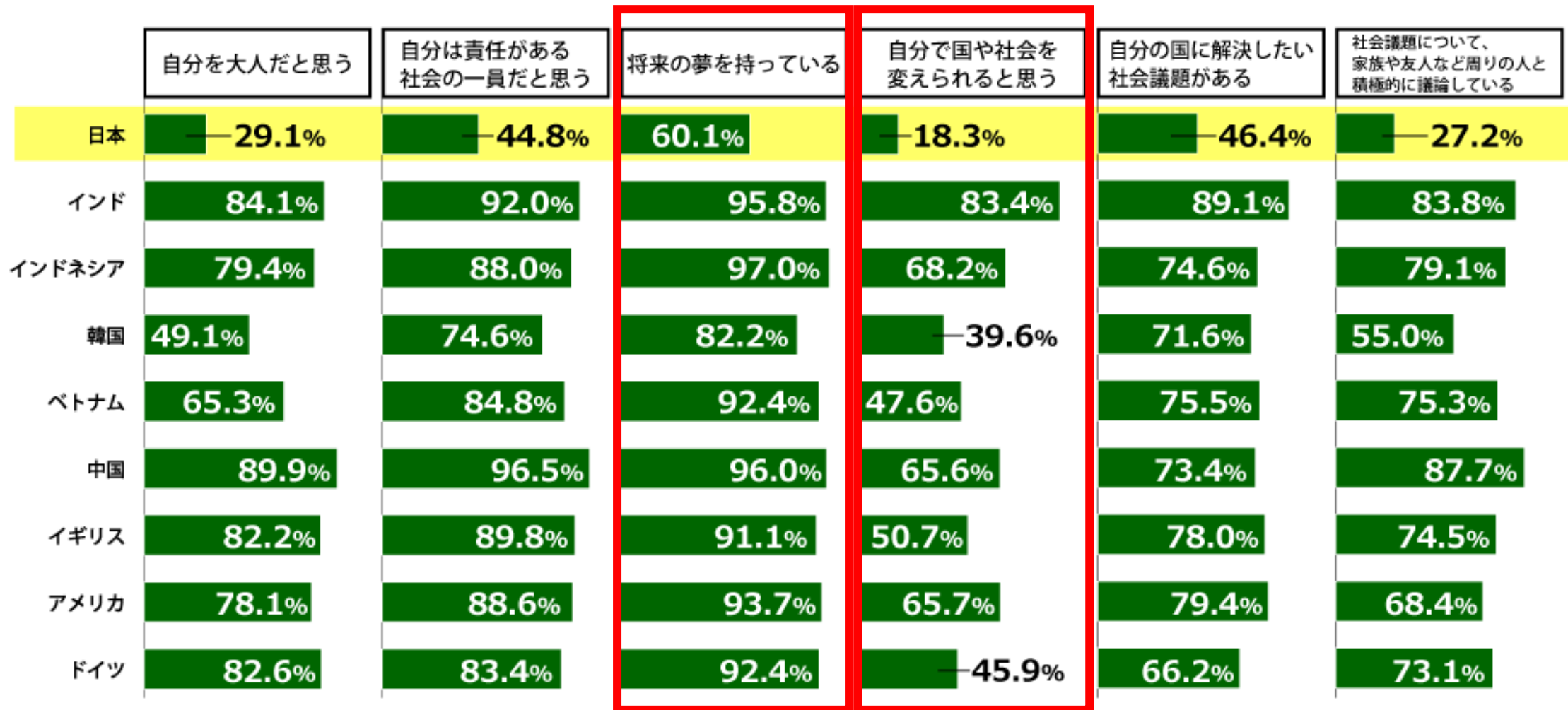
連携型

情報受信型

豊かな体験・たくさんの情報受信・地域(外部) 連携・異校種連携

# 日本財団「18歳意識調査」第20回 「国や社会に対する意識」 （9カ国調査）2019

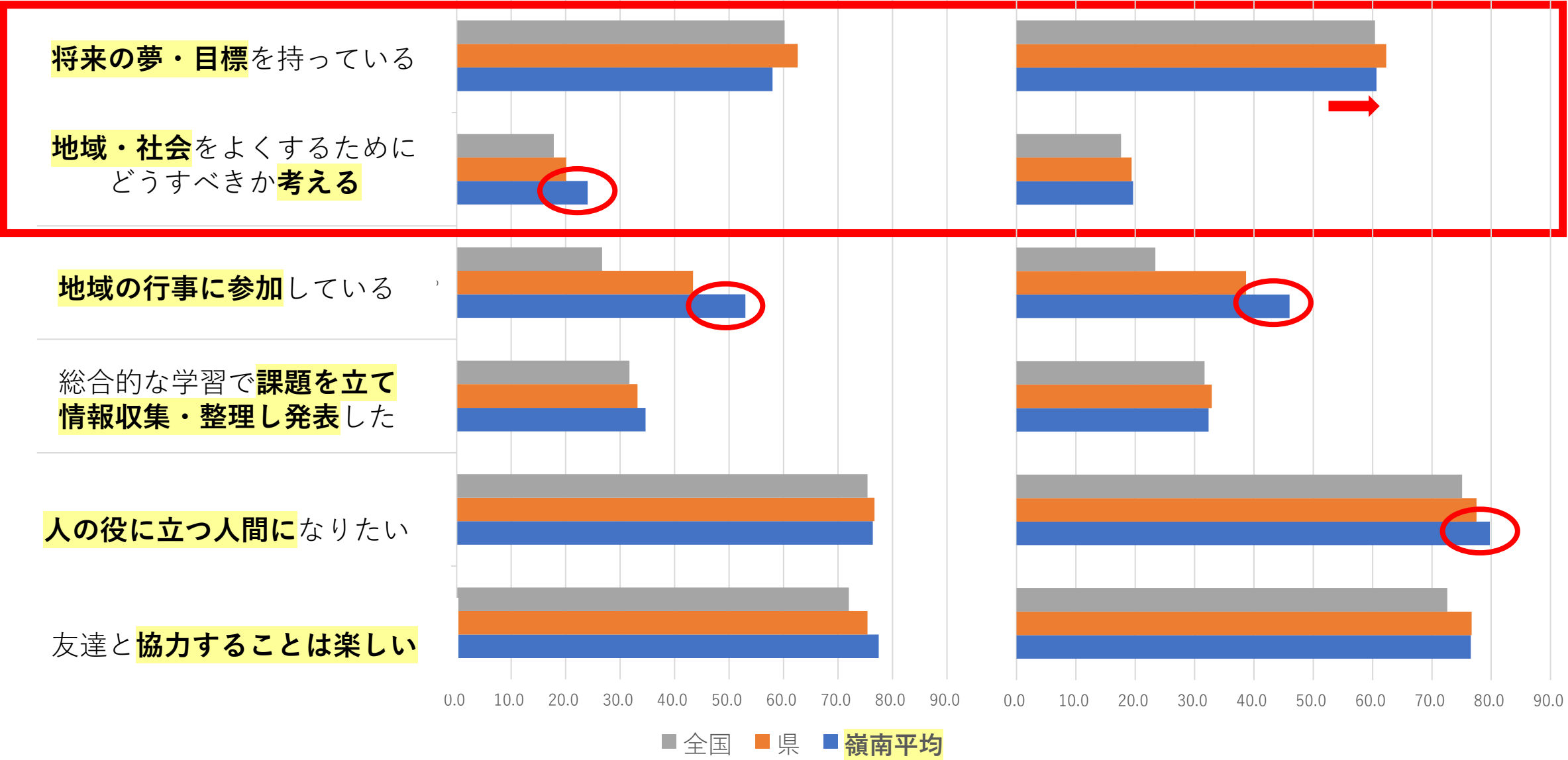
Q. あなた自身について、お答えください。（各設問「はい」回答者割合）





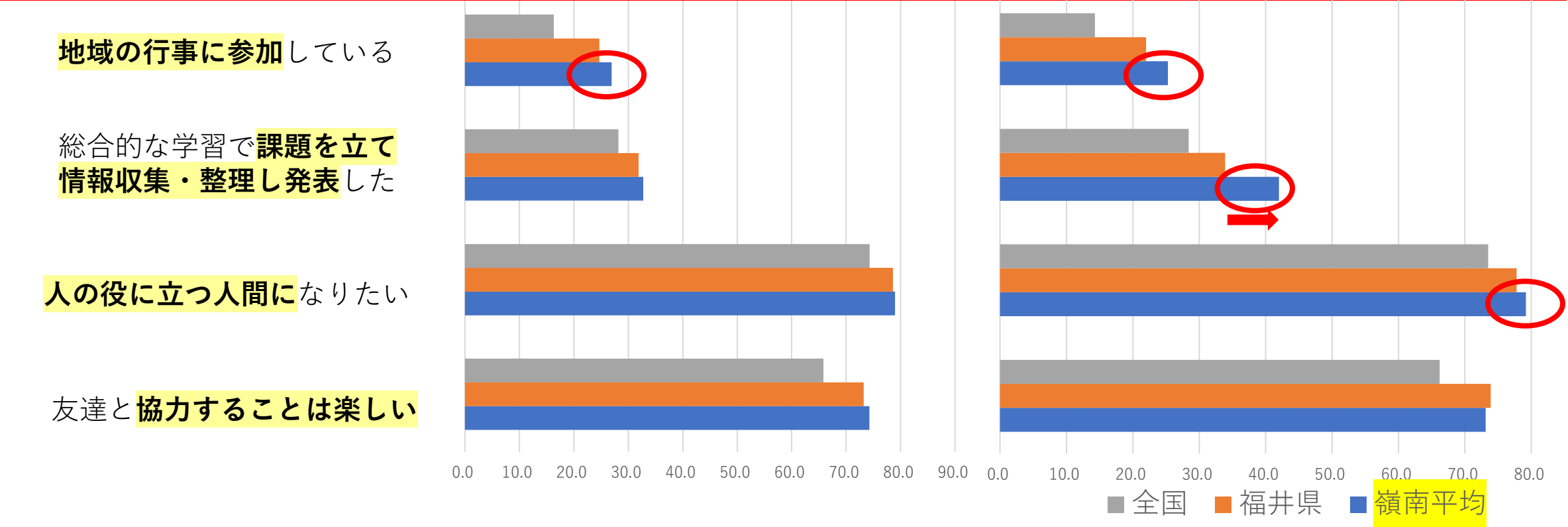
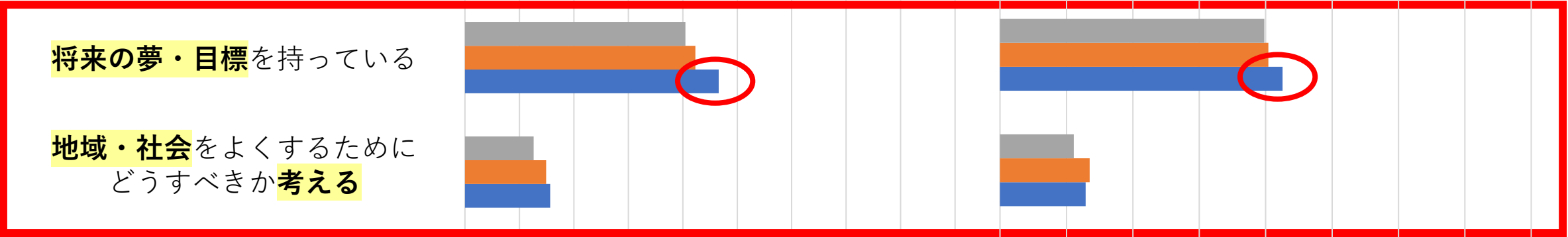
R3年度小学校

R4年度小学校



R3年度中学校

R4年度中学校



## 「学び・交流推進」 チームmission

- ◇資質・能力の見取り・評価を「学ぶ」場をつくる
- ◇学校間で資質・能力について共に考える場をつくる

【講師を招聘した「学び」の場づくり】 R-cafeの開催

【小・中・高・大のつながりづくり】 交流の場づくり

【嶺南教育実践フォーラムとの連携】 共有の場づくり

## ～嶺南で実現する探究的な学び～

7/13 参加者20名(当講師研修講座 参加者対象)

一般財団法人こたえのない学校

代表理事

藤原 さと 氏

### 【おもな感想】

- ・身近なことを題材にし、自分たちが考えたことや行ったことに対しての有用感が感じられるものにすることができると、次の意欲につながるような気がする。
- ・設定した課題に対して生徒の熱量がずっと継続するために、どのような工夫をすると良いかということを学びたい。
- ・テーマが具体的になるほど、児童生徒の活動も多方面になり教師の把握が難しくなることも、確かにその通りだと思う。
- ・課題の設定、ゴールの設定が難しいと思った。課題設定は、必ずしも「問い」から入らなくてもよいということが目から鱗だった。
- ・探究の段階は、小中高と順を追って進んでいくイメージなのかなと感じた。
- ・自分たち教員が楽しんで取り組めることが本当に大切だと感じた。



嶺南ふるさと学習推進プロジェクト  
先生たちの「学び・交流」オンライン座談会

参加者  
募集



# R-cafe



嶺南だからこそできる? 「ふるさと学習」  
～自ら「問い」をつくるカ～



令和4年

11/29(火)

14:30～16:00

慶應義塾大学特任准教授・プロデューサー

わかしん ゆうじゅん

若新 雄純 氏

## 《プロフィール》

若狭町出身。慶應義塾大学大学院修了。「鯖江市役所 JK 課」など社会実験的な事業や研究プロジェクトを多数企画。現在、福井県教育庁・高校教育課と県内高校の校則を見直す「ルールメイキング」事業もプロデュース中。「ワイド!スクランブル」や「Nスタ」など多数のテレビ・ラジオ番組でコメンテーターとして出演。

## 【ポイント】

- ・すぐに答えの出るものではなく、正解よりも疑問を大切に。○より!?
- ・探究していい問いをつくるのではなく、子どもたちの気になって仕方ないから問いが生まれる。

## 【おもな感想】

- ・問いのために探究しているのではなく、感情が大事。
- ・何を一番大切にしたらよいかは自分の中ではっきりしました。何を正解とするかは探究者に委ねられていること。違うのでは!?を言葉にすること。

## 【C1・C2 のセッションについて】

C-1 C-2 共通	2月10日(金) 14:00~14:50	ふるさと教育(研究推進校実践発表) 「自ら『問い』をつくる力」の育成と見取り・評価について  <当日発表> 美浜町立美浜東小学校 校長 小島 義和 若狭町立瓜生小学校 校長 津田 雅幸  <事前視聴> 高浜町立高浜小学校 校長 朽木 史昌 おおい町立本郷小学校 校長 早川 勇治 若狭町立熊川小学校 校長 加藤 勝代
C-1	2月10日(金) 14:50~16:30	第2回「嶺南ふるさと学習」推進プロジェクト会議
C-2	2月10日(金) 14:50~15:30	R-cafe 先生たちの「学び・交流」オンライン座談会

R3年度実施



生まれた「つながり」



岡山大学 准教授

中山 芳一 先生

非認知能力としての  
「主体性」を育て、見とる

- 小浜市立西津小学校
- 若狭町立瓜生小学校
- ・講師として招聘
- ・岡山県 勝間田小学校との交流（非認知能力育成）

# R 4 「知るvol. 2」 事務所実行委員会のギミック

## 「連携サポート・広報」チームmission

### ◇実践をサポート

【参観・助言】 自ら「問い」をつくる学習場面を参観・助言

### ◇実践をつなぐ

【実践校の情報提供】 見取り・評価の実践情報を提供

【同校種連携モデル】 大学講師等との連携を提案

【異校種連携モデル】 小・中・高校間の連携を提案

# 今年度の重点

- ① 「自ら『問い』をつくる力」の育成
- ② 「自ら『問い』をつくる力」  
の見取り・評価



研究推進校 5校



# 【美浜町研究推進校】美浜東小学校の取組

## ○ふるさと新特産物「鯖のへしこ」作り・販売 (6年生)

### 1 修学旅行での販売活動(10月に向けて)

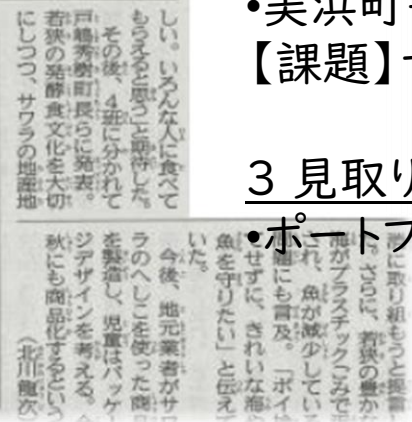
- 校長が児童に「MISSION」→児童の「問い」へ
- 【MISSION 1】サワラのへしこを販売しよう!
- 【MISSION 2】修学旅行の行先を決めよう!
- 【MISSION 3】販売にあたって何が必要か?

### 2 日本財団～海と日本～プロジェクトのプログラムに参加(7月)

- 多数のプログラムに参加、
- 日向の生産者グループと、サワラのへしこを使った調理実習
- 美浜町長にプレゼン実施
- 【課題】サワラは福井県で一番漁獲量が多い南方型の魚。県需要少ない。

### 3 見取り・評価

- ポートフォリオ的に記録



# 【若狭町研究推進校】瓜生小学校の取組



## ○地域の歴史探究（6年生）

- ・以前から取り組んできた古墳群について探究を進めていく。
- ・瓜生にある古墳群を「有名に」「知ってもらいたい」という目標・夢。
- ・様々な活動を考える中に、障害（壁）が出てくる。
- ・それを課題として、児童がアイデアを出し、課題を解決していく学習へ。

## ○活動

### 1学期「古墳群について知る」

- ・古墳群について語り、発信できる発信力の育成を目指す。
- ・修学旅行や熊川小との交流会での発表を想定。
- ・若狭町学芸員、語り部の協力（地域の人材の活用）。

### 2学期「自分たちの調査・発信活動」

- ・古墳群を有名にするために、パンフレットづくり、SNS発信などの意見からグループに分かれ活動。

## ○見取り・評価

- ・感想、活動の記録、自由な記録をポートフォリオ的に残す。
- ・教員評価、自己評価を取り入れ、自分の活動を振り返る活動を行う。



# 【若狭町研究推進校】熊川小学校の取組



## ○地域の宝についての調査・発信（4～6年生）

### ○「問い」へのアプローチ

- ・社会福祉協議会との連携によるしかけづくり。
- ・地域自宅蔵から、江戸・大正明治時代「引き札（広告・チラシ）」発見
- ・社会福祉協議会の方から、調査の続きを熊川小4～6年生に依頼。
- ・例年熊川小学校で作っているパンフレットにも掲載を依頼。

### ○活動

- ・実物を鑑賞 → 興味、気づき、疑問、調査したい引き札の選択
- ・縦割りグループ活動（地域調査、インタビュー等）

### ○見取り・評価

- ・個人面談（児童の気づき・活動計画作成について評価予定）





# 【おい町研究推進校】本郷小学校の取組



## ○おい町の良さを発見し、発信する(全学年)

- ・地域密着型のふるさと学習に取り組み、地域の資源・人材を活用
- ・近畿大学との連携(町事業)→報告、助言
- ・ループリックによる見取り、評価の研究

<1～2年生> 身近な場所での「気づき」「体験」を積み重ねる

<3,4年生> 「経験」「知識」を積む

○4年生「梅」…子どもの考えを大切にする

- ・梅の収穫から、梅シロップや梅干しをつくる、三方梅との「違い」を体験
- ・栄養教諭、梅園、生産組合、企業「うめっぼ」と連携
- ・国語「お礼状」等の教科横断

<5,6年生>「おい町の強みを考える」

- ・古民家の調査、活用方法
- ・自分たちができること

「きのこの森」、本郷小児童制作キャラクター「ウメリちゃん」を生かす

- ・近畿大学生(外からの視点)と自分たちの視点の「違い」から「問い」へ

# 【高浜町研究推進校】高浜小学校の取組



## ○高浜小SDG'sを活用した課題発見、調査・発信活動(全学年)

・地域密着型ふるさと学習。地域の生の声を実際に聞き、課題の設定や問いを生み出す活動。児童・外部機関・人が積極的に学校に行き来。

### <1～3年生共通:身近な場所での気づきを生む>

- ・1年生「通学路探検」「町探検や地域の方との交流」
- ・2年生「地域の食材」「観光スポット・神社等」体験→パンフレットづくり→校内発表
- ・3年生「地域の食材」「町内探検」→校内発表

※2、3年生:食材の収穫、地域との交流

### <4年生「高浜小SDGsをもとに、何ができるだろう」>

高浜町社会福祉協議会と連携、高齢者施設での交流体験

### <5、6年生共通「コドモノ明日研究所入所」>

- ・新高浜小SDGs制作・発表
- ・若狭高校文理探究科生徒との合同学習会(9月)  
「新・高小SDGsを通して、ふるさと若狭について考える」
- ・若狭高校文理探究科生徒へのプレゼンテーション

### <見取り・評価について>

- ・学びの履歴を残す・・・タブレットの活用
- ・自己、相互(グループ)評価、異学年評価(発表)
- ・外部評価・・・毎週月曜日、コドモノ明日研究所から来校





• R5 「知るvol.3」 →  
「つなぐ・広げるvol.1」

• 学校間の教員、児童・  
生徒をつなぐ

• 探究的な学びをつなぐ  
「ふるさと学習⇔教科」





# <2> グループセッション(40分)

## 【セッション1】

- ・ 実践発表校への質疑応答・感想の共有

## 【セッション2】

- ・ 5校の実践＋自校の実践から見えた  
「自ら『問い』をつくる力」の育成のための  
環境づくり、つながりづくりについて

## 【セッション3】

- ・ 「自ら『問い』をつくる力」の見取り・評価について



# <3>セッションの共有(10分)

## 各グループからの報告

(各2分間)



## <4> 次のステージへ

# 「嶺南ふるさと学習」プロジェクト

ステージ1「知るvol.3」、そして、  
ステージ2「つなぐ・広げるvol.1」へ





# ステージ1「知る」年度別計画

R 3 「知るvol.1」 → 相互の実践を「知る」

課題→・資質・能力の見取り、評価  
・学校間の「つながり方」

R 4 「知るvol.2」 → ①資質・能力の見取り・評価  
②異校種間のつながり方

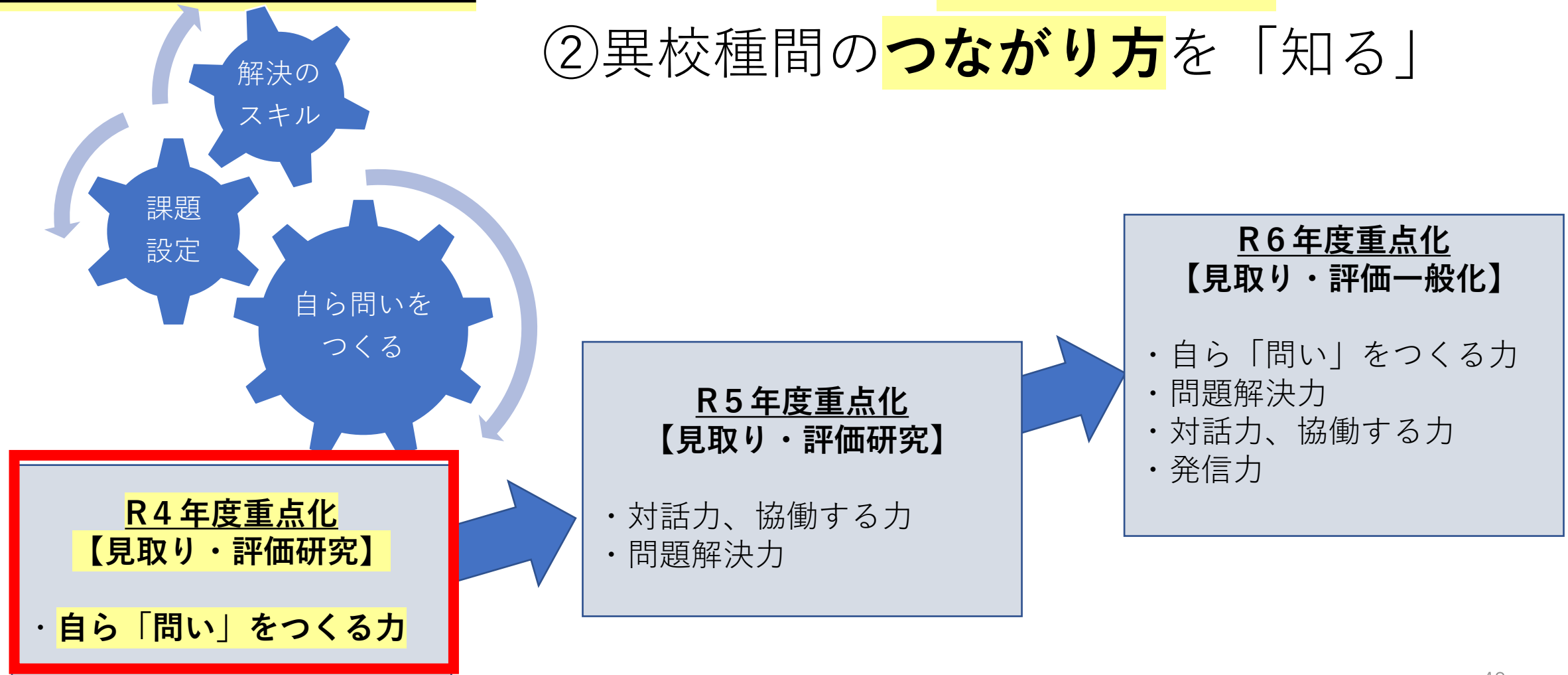
R 5 「知るvol.3」 「つなぐ・広げるvol.1」

学校間の教員、児童・生徒をつなぐ  
探究的な学びをつなぐ「ふるさと学習⇔教科」<sup>47</sup>

# 重点化した「知る」の「見取り・評価」研究

## R4 「知るvol.2」

- ①資質・能力の**見取り・評価**を「知る」
- ②異校種間の**つながり方**を「知る」



「嶺南ふるさと学習」に「教科学習」を ✕ する

「嶺南  
ふるさと学習」

探究的なふるさと学習

各教科で  
身につけた  
「見方・考え方」

見方・考え方を働かせた教科学習

教科の「見方・考え方」を働かせる



# <5>アドバイザー高評

